



平成 20 年 12 月 4 日

報道資料

社団法人 日本オーディオ協会

平成 20 年度 第 13 回「音の匠」の顕彰

社団法人日本オーディオ協会(会長 校條 亮治)は、音楽、オーディオ、レコードなど「音」の文化について多くの人々に認識していただき、また音楽とオーディオ産業発展のために、(社)日本レコード協会、(社)日本音楽スタジオ協会などと協調して、1994 年に 12 月 6 日を「音の日」と決めました。

この 12 月 6 日は、かの発明王トーマス・エジソンが 1877 年、世界で初めて蓄音機「フォノグラフ」を発明した日であり、音を記録し再生するオーディオの誕生日ということになります。

この「音の日」の記念行事の一つとして、日本オーディオ協会は 1996 年より音を通じて文化や生活に貢献されている方々を「音の匠」として顕彰し、広く一般の方々に素晴らしい音の世界を認識していただく活動をつづけております。

第 13 回目にあたる本年度は次の方々を顕彰します。

「音の匠」 中村 啓子(なかむら けいこ)様 (ナレーター)

「音の匠特別賞」山下 桜(やました さくら)様 (パイオニア株式会社)

「音の匠」の中村 啓子 様は、電話案内や公共乗り物などにおける明瞭で親しみのあるアナウンスによって、私たちに身近な日常生活を支えています。

「音の匠特別賞」の山下 桜 様 は、「身体で聴こう音楽会」事務局長として、長年にわたり聴覚に障害がある人達に音楽を楽しんでいただく活動を続けています。

以上